

IFC検定立ち上げに関して

2014年6月

一般社団法人 IAI日本
IFC検定委員会
IFC検定準備WG

IFC検討内容

- IFC検定の目的
- IFC検定の効果
- 検定後の展開
- IFC検定のロードマップ
 - ✓ 検定体制案
 - ✓ 検定対象範囲案
 - ✓ 検定準備・プロセスのイメージ

IFC検定の目的

- IFC検定を行う目的
 - IFCデータによるBIMソフト間データ連携品質向上
 - 目的に合わせたIFCデータ連携の仕様の明確化（IDM※1、MVD※2の定義）
 - 国内業務に合わせた仕様のIFC定義（コーディネーションビュー※3のサブセット）
 - BIMソフト活用リテラシー向上
 - 国内におけるIFCデータの实用化を加速
 - 公共発注事業におけるBIMガイドラインの基準
 - 民間発注工事におけるIFCの利用
 - IAI日本が公認する認定制度

※1：IDM Information Delivery Manual（情報配信マニュアル：BIMデータ連携仕様）

※2：MVD Model View Definitions（モデルビュー定義：BIMデータ連携仕様をIFCで表現する際の定義）

※3：コーディネーションビュー：building SMART Internationalによって策定され国際IFC認証の基盤となるモデルビュー定義

IFC検定の効果

- 利用者が得られる効果
 - IFCデータによる効率的なBIMデータ連携が促進される
 - 検定によるIFCデータ連携品質向上による効果
 - 業務に合わせたソフトの選定が容易となる
 - IDM/MVDによりBIMソフトのデータ連携特性が開示されることの効果
 - ベンダー・開発者と一緒にIFCデータ連携仕様策定に関われる。
- BIMソフトウェア販売者が得られる効果
 - 利用者のニーズを具体的に把握しやすい
 - BIMソフトとしての位置付けが明確になる
- BIMソフトウェア開発者が得られる効果
 - 利用者が求めるデータ連携仕様が把握しやすい
 - 目的に合わせたIFCデータ連携部分の開発に特化できる
 - データ連携仕様の解釈の違いによる互換性問題等を、公の場で確認・調整できる。

検定後の展開

- 認定証発行
 - IAI日本が発行する認定証。
 - MVDの範囲内におけるIFCデータ連携シナリオの明確化。
- IFC検定ロゴ使用权
 - 特定のBIMデータ連携シナリオにおいてIFCデータ連携が検定されていることを明示することで、販売促進につながる。
- 技術資料
 - 検定BIMソフトウェアのモデリングガイド資料（IFCデータ作成手法説明書）
- ホームページ上での公開
 - 中立な立場からの情報公開によって、利用者からの信頼を得られる。

IFC検定のロードマップ

初年度

- IFC検定立ち上げ：検定体制などの構築
- IFC検定の実施：MVDに合わせた検定方法の確立
- B会員サービスについて：
 - 検定プロセスに関する意見交換会の設定
 - 検定プロセスへの意見反映

2年目

- 検定体制の拡充・MVDの整備
- IFC検定の展開：
 - 検定拡大に向けた啓蒙活動
 - BIMガイドラインへの展開
 - IFC対応ソフトの検定状況を情報公開

3年目以降

- 検定体制の拡充・MVDの整備
- 国際IFC認証の代理認証機関
- 資格認定への展開（スキル・BIMパーツ・企業など）